

令和4年度宮崎県立図書館評価表

開 今 後 の 方 向 性 展 望	施 策	施策の項目	自 己 評 価		外 部 評 価		
			説 明	評価	協議会意見	意 見	評価
I 全 県 的 な 読 書 環 境 と 図 書 館 ネ ッ ト ワ ー ク 構 築 の 核	1 市 町 村 立 図 書 館 (室) 等 の 支 援	①図書配送システムの周知と一層の活用	(b) 市町村のマイライン利用率は97.3%となり、活用実績が少ない市町村もまだあるが、利用冊数は前年度と比べて増加した。	B	<p>●マイライン等の利用拡大のための普及啓発に取り組む余地がある。</p> <p>●マイラインという名称が馴染みにくく、具体的に分かりやすい名称に変えるとより親しみやすくなるのではないかな。</p> <p>●要請訪問や研修、マイラインの周知広報などの取組により、県立図書館が身近な存在になってきている。</p> <p>●学校図書館支援の相談担当窓口が分からず、支援要請しにくい。</p> <p>●参考図書の貸出禁止を緩め、市町村への提供支援に努めてほしい。</p> <p>●県立図書館の収蔵能力が市町村にも影響を与えることから、拠点図書館としての役割を果たすためにも、所蔵スペースの確保について関係機関への働きかけが必要である。</p>	<p><図書配送システムについて></p> <p>●マイライン・相互貸借による配送システムの確立で県内図書館の全蔵書が県民財産として活用できている。</p> <p>●ネットワークの構築、マイラインへの取組は積極的に行われており、評価したい。ただこれ以上の成果を出すには名称変更やチャンネルを変えた広報活動などが必須と考える。</p> <p>●自動車文庫やまびこ号（H28年廃止）の再開は予算や実務上難しいことも理解できるが、市町村の同様のサービスに対しては厳しい状況でも期待を求める姿勢には共感できなかった。マイラインと付属した新しいアイデアが求められていると感じた。</p> <p>●「マイライン」の名称が分かりにくい。</p>	B
		②「市町村支援チーム」による巡回訪問等	(a) 巡回訪問等を計50回行うなど積極的な支援に努め、現状や課題を把握することができた。				
	2 学 校 図 書 館 の 支 援	①県立学校図書館に対する支援	(b) 新規の県立学校マイライン接続校数は目標に足りなかったが、県立学校へのマイライン貸出冊数は増加した。	B			
		②市町村立学校図書館に対する支援	(b) 県教育委員会や市町村立図書館(室)等と連携し、学校図書館支援に関する助言・研修や情報収集を行うことができた。				
	3 市 町 村 立 図 書 館 、 学 校 図 書 館 、 大 学 図 書 館 等 と の ネ ッ ト ワ ー ク の 構 築	①構築したネットワークの活用	(a) 研修内容等によりオンライン方式、対面方式、それらを組み合わせたハイブリッド方式と研修方法を充実させることができた。 (a) 定期訪問で県内全市町村立図書館(室)を訪問し、各館の状況や課題を把握した。	B			
		②市町村立図書館(室)との連携	(b) 市町村立図書館(室)と連携し、新型コロナウイルス感染拡大防止について情報共有ができた。				
		③大学との連携協力	(b) 宮崎県大学図書館協議会を通じて大学図書館とも情報を交換し、協力体制を維持することができた。				
	4 図 書 館 活 動 を 支 え る 施 設 ・ シ ス テ ム の 維 持 管 理	①所蔵資料の収蔵対策	(c) 収蔵スペースの確保のため除籍等に努めたが、書庫増設に向けて新たな取組ができなかった。	C			
		②老朽化対策	(c) 経年劣化等のために不具合の生じている防災設備を予算の範囲内で順次修繕したが、未整備のものもある。				
		③危機管理対策	(b) 危機管理対策として特殊な勤務態勢に対応した土日祝日等の少人数体制時の避難誘導訓練やAEDの職員研修等を実施し、職員間の共通理解を図ることができた。				
		④図書館情報システムの維持管理	(b) 令和3年3月から稼働している現行の図書館システムについては稼働2年目となり、目立った調整や不具合の修正は発生せず、おおむねトラブルなく運用できた。				

開 今 後 の 方 向 性 展 望	施 策	施策の項目	自 己 評 価		外 部 評 価		
			説 明	評価	協議会意見	意 見	評価
II 県 立 図 書 館 な ら で は の 専 門 的 な サ ー ビ ス の 充 実	1 レファレンスサービスの充実	①国会図書館協同データベースの活用	(b) レファレンス協同データベースについては、アクセス数は伸び悩んでいるが、当館の事例を24件登録し、目標登録数を上回った。 (b) 利用者のニーズに応じて所蔵資料や関係機関等を紹介し、的確な情報を提供するなど、メール等も活用しながら調査・研究の支援に努めた。	B	<ul style="list-style-type: none"> ●ホームページでのレファレンスサービスは内容が詳しく丁寧であるが、利用数が全国でも低迷している。 ●ホームページでレファレンスサービス利用申込を行う際の操作が煩雑であるため、改修して簡単にできるようにすると利用促進につながるのではないかと。 ●企業者や実業者などのビジネスマンに向けて図書館利用の働きかけやイベントを実施し、ビジネス分野の資料の利用拡大を図ってほしい。 ●県民の一生の学びを支えるためにも、子どもたちにとっての読書の重要性や必要性をアピールすることが必要である。 ●中高生に向けたイベント等の読書推進の取組を充実させてほしい。 	<p><専門的なサービスの充実について></p> <ul style="list-style-type: none"> ●引き続き司書資格取得者を増やすなど県立図書館の専門的なサービスの向上に資する取組を強化してほしい。 ●レファレンスサービスや郷土資料の収集など、前向きに改善と行動をしているのが伺え、評価できる。電子書籍の導入検討や県民に対してのイベントも積極的であり、今後にも期待したい。 ●レファレンスサービスについて、その利便性がいまひとつ周知されていない感がある。PRの機会を増やすのもひとつの方策と考える。 <p><電子書籍導入にかかる検討について></p> <ul style="list-style-type: none"> ●学校では一人一台学習端末が実現し、さまざまなデジタル資料を授業や学習で活用するようになってきている。文部科学省の調査による全国の導入状況や「読書バリアフリー」の視点からも電子書籍導入の検討が必要である。 ●導入してからどう県民サービスとして活用するかが重要であり、導入段階から電子化の効果が最大限に発揮できるようなアイデアと準備を期待したい。 <p><生涯読書活動の推進について></p> <ul style="list-style-type: none"> ●障がい認定されていないロービジョンの方へのサービスがない。 ●生涯読書は個人のライフスタイルによるところが大きく図書館には限界があることも理解できるが、音読会が年2回とはあまりに少ない。館外活動は評価できる。 	B
		②県立図書館レファレンス担当職員の能力向上	(b) 新型コロナウイルス感染拡大により外部の専門研修への派遣を実施できなかったが、当館主催のレファレンス研修については、オンラインにより実施した。				
	2 専門的な資料・情報の収集・整理・保存・提供	①計画的な資料収集	(b) 資料収集重点項目について他部門と協力して資料収集を行った。	B			
		②専門的な資料収集にかかる周知	(b) 新しい資料の収集においては、県立の役割として市町村では購入が難しいと思われる専門書や高額な書籍の選書に努めた。				
		③電子書籍導入にかかる検討	(b) 電子書籍について、他県の導入館への調査や事業者からの聴取等を行い、電子書籍サービスの概要資料をまとめた。				
		④蔵書構成及び配架方法の見直し	(b) 県広報・県議会資料の整理、不要資料(実用書等)の除籍を行い、収蔵スペースを確保した。				
		⑤パスファインダーや書誌充実による利便性向上	(c) ビジネス分野のパスファインダーを更新したが、他の分野については更新できなかった。				
	3 生涯読書活動の推進	①読書に障がいのある方への読書機会の提供	(a) 登録されている全ての障がい児通所施設が団体文庫を利用している。 (a) 柔軟で積極的なサービスを提供したことにより、無料郵送貸出、視覚障がい者等のための音声録音図書の提供などの貸出は令和4年度の目標値を大幅に上回った。	B			
		②各世代への多様な読書機会への提供	(b) 心身の健康増進にもつながる音読会を2回開催し、参加者からは大変好評であった。 (b) 感染症が長期化し、貸出総数は目標に及ばなかったが、可能な限り開館継続などの対策を講じて読書機会の提供に努めた。				
		③外国人への多文化サービスの周知	(b) 閲覧室内の外国語資料コーナーで約2,200冊を利用に供しており、児童室内でも外国語で描かれた絵本を多数配架している。				
	4 他の専門機関との連携	①美術館、博物館等の県文化施設または大学等との連携	(a) 美術館等と連携した展示やイベントを行って広く関心を集め、図書館や本に対する注目を高めることにつなげた。	A			
		②県関係機関、各種専門機関、NPO等との連携	(a) 新型コロナウイルスの感染対策に留意しながら、安全・安心な環境で各種のサービスができるように務めた。 (a) 大学やNPO法人と連携した事業を、感染防止対策を講じながら実施した。				
	5 館外活動の実施	①読書関連イベント等への協力	(a) 新型コロナウイルス感染拡大の影響の中でも、市町村立図書館(室)の依頼に応じてイベント等の情報発信に協力するとともに、ブックピクニックなどのイベント運営をはじめとする館外活動に積極的に寄与した。	A			
		②市町村立図書館(室)への読書活動に係る助言・支援	(a) 要請訪問やアドバイザー派遣を実施することにより、要請先の市町村立図書館(室)へ運営や読書振興等について支援を行うことができた。				

開 今 の 後 の 方 向 性 策 展	施 策	施策の項目	自 己 評 価		外 部 評 価		
			説 明	評価	協議会意見	意 見	評価
Ⅲ 「知の共有・創造」による深い学びや課題解決の支援	1 情報アクセス環境の整備	①県立図書館としての情報発信	(b) ホームページのアクセス件数は目標に達しなかったが、SNSのフォロワー数はインスタグラムの開始もあり、令和4年度の目標を達成した。 (b) イベント等を一部制限したことの影響から積極的な情報発信を展開することが困難であったが、県関係機関と連携した展示等を年間を通して実施した。	B	●新たにインスタグラムが開始となり、情報発信手段が増えた。 ●SNSの投稿数も多く、情報内容も豊富になっているが、「映え」の要素が足りない印象があり、工夫がほしい。	<県立図書館としての情報発信について> ●発信することがゴールではなく、成果を検証することが重要であり、より成果を意識した投稿を行ってほしい。 ●展示や本に関する投稿が多く単調である。モノ（本）だけでなくヒトやコトに会いに行く場になることで、多様性と多面的機能を有した県立図書館となり、今後の運営の重要なカギになると考える。様々な分野の担当職員を登場させ、ヒトを感じる投稿を増やしてほしい。	
		②効率的・多面的な情報アクセス環境の整備	(c) 利用者が手軽に利用できるパスファインダーが限られている。				
		③書誌情報の充実	(b) 限られた時間の中で書誌情報の充実を図った。				
	2 課題に応じた情報サービスや「知の共有・創造」の場の提供	①多様な情報サービスや学習機会の提供	(a) 日本政策金融公庫との連携事業として初めて「高校生ビジネスプラン作成講座」を開催するなど各機関と連携した取組を進めた。	A			<学習機会の提供、深い学びの場づくりについて> ●高校生が文化施設や大学教員のサポートを受けながら探求活動を行ったラーニング・コモンズ事業は、生徒たちにとって郷土の偉人に触れ、社会や大人と接する貴重な経験となった。生徒たちが参加・体験できる取組をこれからも企画してほしい。 ●ラーニング・コモンズ等の新たなニーズに対応できるように検討してほしい。
②個人やグループなどの深い学びの場づくり	(a) 美術館等と連携し、当館の持つ郷土資料を活用した参加型のラーニング・コモンズ事業を実施し、成果をホームページに公開するとともに、取組をPRした。						
3 政策立案の支援	①政策立案の支援	(b) 行政機関からのレファレンスは90件に止まり、目標の9割の達成率であったが、庁内電子掲示板を活用したサービスの周知やレファレンスに関する情報を具体的な事例を含めて提供してきたことで、昨年度よりも増加した。	B				
4 地域の実情に応じた課題解決型サービス	①市町村立図書館(室)の支援	(a) 地域課題解決型サービス研修を初めて開催した。	A				
Ⅳ みやぎの文化の理解・継承の促進	1 地域資料の収集・保存・活用の全体的な促進	①より専門的な資料の収集・整理・保存	(c) 地域資料の収集数が目標値を下回った。 (b) 市町村立図書館等が所蔵している古地図の収蔵状況を把握することができた。	B	—	<地域資料の収集・保存等について> ●郷土史・民俗学関連の資料等の収集・充実に努めてほしい。 <地域情報のデジタル化について> ●デジタル資料の整理とともに、利用や閲覧等の増加に向けて、広報活動等を充実してほしい。 ●みやぎの資料（地域資料）の拠点として、地域情報のデジタル化、データベース化の全体的な促進をさらに図ってほしい。 ●地域史料のデジタル化とウェブ公開は時代の流れであり、今後もさらに充実させてほしい。 ●貴重書のデジタルアーカイブ化・データベース化はどの程度進んでいるのか、県民はアクセス可能なのか、など今後の情報提供に期待したい。	
		②県全体での効率的・効果的な資料収集による資料の充実と共有化	(a) 市町村立図書館等と地域資料収集の必要性や活用法について意見交換をすることができた。				
	2 地域情報の収集・整理・発信	①個性と魅力ある地域づくりへの貢献	(b) 地域資料を活用した展示会や講座等は計画通り実施することができた。	B			
		②本県文化の魅力を発信	(a) 若山牧水遺墨(小林邦夫コレクション)を特別展「若山牧水～牧水と旅～」で展示した。				
3 地域情報のデジタル化・データベース化	③地域情報のデータ整理による情報発信	(c) 宮崎県に関するパスファインダーの取組が進んでいない。	B				
	①地域に関する貴重資料の所蔵状況のデータベース化	(a) 目標以上の点数をデジタルアーカイブに登録することができた。					
4 本県の言語文化の継承	①「語り部」の養成及び活用推進	②貴重書のデジタル化(デジタルアーカイブ)の推進	(b) デジタルアーカイブへのアクセス数は目標値に届かなかったが、SNS等で広報に努めており、着実にアクセスが増えている。	B			
		③「語り部」の養成及び活用推進	(b) 「語り部養成講座」で養成した語り部が当館で自主的な活動を続けている。				

開 今 後 の 方 向 性 展 望	施 策	施策の項目	自 己 評 価		外 部 評 価		
			説 明	評 価	協 議 会 意 見	意 見	評 価
V 図 書 館 ネ ッ ト ワ ー ク を 支 え る 人 財 の 育 成	1 専 門 的 な サ ー ビ ス を 支 え る 人 財 の 育 成・ 確 保	①幅広い知識や技能、ネットワーク力を有する人財の育成・確保	(c) 令和4年度の県外専門研修受講者数は7名にとどまった。 (a) 県立図書館で行った市町村立図書館(室)職員対象の7回の研修会でのアンケートの結果の満足度は93.4%だった。	B	●司書の資格取得者が決して多くはなく、司書などの資格取得の推進と研修の充実をさらに進める必要がある。 ●自館の直接サービスや市町村への後方支援に注力できる体制づくりのために人財育成を進めてほしい。	<人財の育成・確保について> ●電子書籍サービスの導入に向けて、情報収集等を積極的に行っているため、今後はシステム管理をする人材の確保等も進めてほしい。 ●県内市町村立図書館との連携・交流をさらに努めて宮崎県内の図書館サービスの充実を努めてほしい。 ●定着と継続、新規就労にも着目して今後も施策を進めてほしい。特に非正規雇用が多く見受けられるので、正規雇用での待遇改善等を積極的に行ってほしい。 ●専門的職員（図書館司書及び学芸員）の採用に努めてほしい。郷土資料の整理・デジタル化・ウェブ公開については学芸員の力も必要かと思う。今後は博物館等との連携で考えていくことも必要ではないか。 ●司書資格を持った能力の高い人材が、一定数は県立図書館の職員として異動することなく図書館業務をしていけるような人事システムにしてほしい。	
		②市町村立図書館(室)との人事交流や短期の研修受入れの検討	(c) 新型コロナウイルス感染拡大により、市町村立図書館(室)との人事交流や短期研修受入れの検討には至らなかった。				
	2 新 た な 知 識 の 習 得・ 共 有	①情報の収集及び研修成果の共有	(c) 電子書籍等について、宮崎市立図書館をはじめ各県の導入状況や民間事業者等の情報収集を行いながら、今後は当館の事業として具体化していく体制を構築する必要がある。 (c) 他県を訪問し取組についての情報収集を行ったが、館内での情報共有が十分にできなかった。 (b) 公共図書館連絡協議会等の研修について研修成果の共有を図った。	C			
3 組 織 及 び 事 業 の 改 善	①利用者ニーズや社会の動向等の把握	(b) 利用者等からの意見や要望がある場合はその都度検討し、可能な限り改善に取り組んだ。	B				
		②組織や事業の自己点検や外部評価による課題の把握		(b) 外部有識者や専門家から、資料保存やデジタル化、広報、市町村立図書館(室)への支援等について様々な意見を聴き、行動指針に反映させた。			
新 型 コ ロ ナ ウ イ ル ス 感 染 症 へ 対 応 し た 運 営	1 感 染 拡 大 防 止 の た め の 取 組	①館内での庁舎管理における感染防止策	(a) 図書館資料の無断持ち出しを防ぐ装置を非接触型に更新して感染防止に配慮した。	A	●利用冊数の減少などコロナ禍による影響が様々なところに出ているが、県立図書館の職員の頑張りや努力の成果が表れている。	<感染拡大防止のための取組について> ●さまざまな対応がなされており、県民が安心して利用できる図書館であった。「Withコロナにおける図書館の在り方」を模索してほしい。 ●新型コロナウイルス感染による対応・対策、災害対策等の取り纏めの情報発信が速やかで、市町村立図書館にとっては安心した図書館サービスにつながっている。 ●苦労も多かったと思う。尽力に感謝したい。	
		②イベント等実施における感染防止策	(a) 入館時の検温、手指消毒、マスク着用、換気などの基本的な感染防止策を徹底した。				
		③市町村図書館(室)との連携	(a) 感染防止に関わる市町村立図書館(室)の対応をまとめ、情報提供した。				
④利用者への情報発信		(a) 館内での感染拡大防止については感染状況を注視しながら機動的に対策を講じ、市町村立図書館(室)とも共有しながら丁寧に県民へ情報提供した。					
2 新 型 コ ロ ナ ウ イ ル ス 感 染 症 に 関 す る 資 料 の 収 集	①新型コロナウイルス感染症に関する地域資料の収集	(b) 新型コロナウイルス感染症拡大防止対策の資料を収集した。	B				
3 With コ ロ ナ に お け る 図 書 館 の 在 り 方 に 関 す る 研 究	①感染症流行時の図書館サービスの在り方やサービスの方法についての取組	(a) 感染症流行時の課題の情報収集を行ったほか、これまでの対策内容を振り返り、今後の方針を検討した。	A				

(注) 次の4段階を基準として評価した。

評価	評価基準の内容
A	成果が出ている。
B	一定の成果が出ている。
C	一部に成果が上がっていない項目がある。
D	成果があまり上がっていない。